

令和7年度 阿武町立阿武小学校 前期学校評価報告

保護者、地域関係者への「よりよい学校づくりのアンケート」と児童の「ふりかえりカード」の集計結果について、本年度の重点目標を踏まえ、「郷」「知」「徳」「体」のそれぞれの重点取組事項について考察を行いました。

本年度の重点目標

子どもたちの将来的な自立と共生を願い、その素地となる「きづく、きめる、かかわる、やりぬく」の心や力を意識し、特に「きめる」において自己選択・自己決定を大切にしながら授業や教育活動を進め、「楽しさ」と「やさしさ」あふれる阿武小学校をともにつくる。

本年度の重点取組事項

郷

- ・育てたい心や力を意識したふるさと学習(ABU学)の推進
- ・学校間、校種間連携の推進(架け橋期のカリキュラム)

知

- ・育てたい心や力を意識した、わかる、できる授業づくり
- ・タブレット端末を効果的に活用した学びの場づくり

徳

- ・豊かな人間関係づくり(挨拶、感謝、言葉づかい 教育相談 道徳 等)
- ・命の教育(防災、防犯、交通安全、アレルギー対応 他)

体

- ・歯と口の健康教育の推進
- ・基本的生活習慣の確立(睡眠、望ましいメディアの利用 等)

コミュニティ・スクールの取組を基盤として

【最重点取組事項】

(知) 学力向上に向けて、分かる、できる授業づくりを進める。

(徳) 温かい豊かな人間関係づくりを進める。

以下に、その報告をいたします。

(郷) ～4つの心や力の育成～ ～保小中の連携・協働～

【4つの心や力の育成】

	そう思う	少し思う	あまり 思わない	思わない	分からない	平均	肯定率
児 童	41.5%	52.4%	4.9%	1.2%	0%	3.3	93.9%
保 護 者	63.9%	31.1%	1.6%	0%	3.3%	3.6	95.0%
地 域	87.5%	0%	0%	0%	12.5%	4.0	87.5%
教職員	84.6%	15.4%	0%	0%	0%	3.8	100%



アンケートの結果から、「きづく、きめる、かかわる、やりぬく」の心や力をふるさと学習「ABU学」や授業等で意識して取り組んできたことにより、児童にそれらの心や力が着実に育ちつつあると捉えています。特に地域と教職員の評価が高いことから、学校の教育目標が地域に浸透し、協働して取組が進められていることが分かります。引き続き家庭や地域と連携しながら4つの心と力の育成に取り組んでいきます。

【保小中高の連携・協働】

	そう思う	少し思う	あまり 思わない	思わない	分からない	平均	肯定率
児 童	69.5%	24.4%	4.9%	1.2%	0%	3.6	93.9%
保護者	75.4%	23%	0%	1.6%	0%	3.7	98.4%
地 域	87.5%	12.5%	0%	0%	0%	3.9	100%
教職員	76.9%	23.1%	0%	0%	0%	3.8	100%



児童、保護者、地域、教職員のすべてが高い達成率を示しており、連携が円滑に行われていることがうかがえます。年長児から1年生の2年間における「育ち」と「学び」をつなぐ「架け橋期のカリキュラム」の研究・実践や阿武学園の学園制加配による中学校教員の小学校への乗り入れ授業、小中合同の行事等を通して、保小中間の連携・協働が加速化しました。

(知) ～分かる・できる授業づくり～ ～タブレット端末を効果的に活用した学習～

【分かる・できる授業づくり】

	そう思う	少し思う	あまり 思わない	思わない	分からない	平均	肯定率
児 童	68.3%	28%	2.4%	1.2%	0%	3.6	96.3%
保護者	39.3%	39.3%	11.5%	1.6%	8.2%	3.3	78.6%
地 域	37.5%	50%	0%	0%	12.5%	3.4	87.5%
教職員	100%	0%	0%	0%	0%	4.0	100%



教職員の100%が「そう思う」と回答しており、児童の評価とも連動していることから、一定の成果が出ていることがうかがえます。一方で、教職員の自己評価と、保護者(39.3%が「そう思う」)や地域(37.5%が「そう思う」)の認識に大きなギャップがあります。教職員の自己満足に終わらず、外部から見ても授業の質が高いと評価されるように、日頃の取組の情報発信や参観日以外でも授業を見ていただく機会を増やすとともに、全国学力・学習状況調査等の客観的指標で学力向上の成果が表れるよう努めていきます。

【タブレット端末を効果的に活用した学習】

	そう思う	少し思う	あまり 思わない	思わない	分からない	平均	肯定率
児 童	64.6%	29.3%	6.1%	1%	0%	3.6	93.9%
保護者	44.3%	26.2%	16.4%	1.6%	11.5%	3.3	70.5%
地 域	50%	25%	0%	0%	25%	3.7	75.0%
教職員	46.2%	53.8%	0%	0%	0%	3.5	100%



児童の64.6%が「そう思う」と回答しており、タブレットを活用した学習が児童にとって有効なものとして受け止められています。しかし、保護者の「分からない」が11.5%、「あまり思わない」が16.4%と多く、地域も25%が「分からない」と回答しており、タブレットの活用状況が外部に十分に伝わっていない状況にあります。保護者や地域に対して、タブレット利用の目的や成果を積極的に情報発信していきたいと思ひます。

【進んで挨拶】

	そう思う	少し思う	あまり 思わない	思わない	分からない	平均	肯定率
児 童	61%	37.8%	1.2%	0%	0%	3.6	98.8%
保護者	49.2%	29.5%	13.1%	3.3%	4.9%	3.3	78.7%
地 域	62.5%	25%	12.5%	0%	0%	3.5	87.5%
教職員	46.2%	46.2%	7.7%	0%	0%	3.4	92.3%



児童の「そう思う」が61%と最も高く、児童自身が挨拶を積極的に行っていると実感しており、教職員の肯定率も高く、学校の中で挨拶が定着してきています。しかし、保護者や地域から「あまり思わない」という否定的な意見が一定数見られます。挨拶が習慣となるには、家庭での関わりと価値付けがとても重要です。「いつでも、どこでも」気持ちのよい挨拶が交わされるように、家庭、地域と協働して取り組んでいきます。

【やさしい言葉を使って話す】

	そう思う	少し思う	あまり 思わない	思わない	分からない	平均	肯定率
児 童	46.3%	47.6%	6.1%	0%	0%	3.4	93.9%
保護者	31.1%	49.2%	11.5%	1.6%	6.6%	3.2	80.3%
地 域	25%	62.5%	0%	0%	12.5%	3.3	87.5%
教職員	15.4%	61.5%	23.1%	0%	0%	2.9	76.9%



児童が決めた今年度のチャレンジ目標の一つが「ふわふわ言葉」です。豊かな人間関係づくりにおいて、相手のことを考えた言葉づかいはとても大切です。「やさしい言葉を使って話す」ことに対する児童の肯定率が高く、チャレンジ目標を意識して取り組もうとしていることがうかがえます。しかし、すべてのグループで「そう思う」の割合が50%を下回り、保護者(49.2%)、地域(62.5%)、教職員(61.5%)で「少し思う」が多数を占めています。引き続き、学校でも取り組んでいきます。ご家庭でもアンテナをはり、しっかり導いていただきたいと思います。

【いじめ防止の取組】

	そう思う	少し思う	あまり 思わない	思わない	分からない	平均	肯定率
児 童	91.5%	7.3%	1.2%	0%	0%	3.9	98.8%
保護者	21.3%	37.7%	13.1%	4.9%	23%	3.0	59.0%
地 域	37.5%	37.5%	0%	0%	25%	3.5	75.0%
教職員	92.3%	7.7%	0%	0%	0%	3.9	100%



児童への質問 「いじめはどんな理由があってもしてはいけません。」

児童(91.5%)と教職員(92.3%)の肯定率が高いです。これは、いじめに対する教育により、児童に「いじめは許されない」という認識が育っている結果だと捉えられます。一方で、児童と教職員の評価が高いものの、保護者の「そう思う」はわずか21.3%で、23%が「分からない」と回答しています。学校の取組が保護者に十分に伝わっていない、あるいは不安感がある可能性があるため、今後一層の情報共有と透明性の向上を図っていきます。

(体) ～基本的な生活習慣の確立～

【よりよい生活習慣づくり】

	そう思う	少し思う	あまり 思わない	思わない	分からない	平均	肯定率
児 童	75.6%	18.3%	6.1%	0%	0%	3.7	93.9%
保護者	34.4%	50.8%	13.1%	1.6%	0%	3.2	85.2%
地 域	50%	37.5%	0%	0%	12.5%	3.6	87.5%
教職員	15.4%	61.5%	23.1%	0%	0%	2.9	76.9%

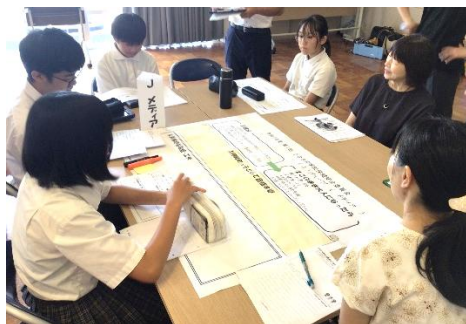


児童への質問 「あなたは歯みがきをすることの大切さが分かり、進んでしていますか。」

イキイキレインボー習慣などの継続的な取組により、児童の 75.6%が「そう思う」と回答しています。生活習慣の重要性を理解し、意識して取り組もうとしていることがうかがえます。しかし、児童の自己評価に対し、保護者(50.8%)と教職員(61.5%)は「少し思う」と回答しており、児童に望ましい生活習慣がまだ十分に身に付いていないと感じています。自立の基盤となる基本的な生活習慣づくりは家庭が中心です。学校でも家庭と連携しながら継続的によりよい生活習慣づくりの意識啓発に取り組んでいきます。

【望ましいメディア利用】

	そう思う	少し思う	あまり 思わない	思わない	分からない	平均	肯定率
児 童	45.1%	32.9%	13.4%	8.5%	0%	3.1	78.0%
保護者	21.3%	39.3%	27.9%	11.5%	0%	2.7	60.6%
地 域	50%	37.5%	0%	0%	12.5%	3.6	87.5%
教職員	7.7%	46.2%	30.8%	7.7%	7.7%	2.6	53.8%



地域の方への質問 「学校は、早寝・早起き・朝ごはん・歯みがき、メディアの正しい使い方など、よりよい生活習慣づくりに取り組んでいる。」とまとめているため、【よりよい生活習慣】と【望ましいメディア】の数値を同じにしている。

児童・保護者・教職員の「そう思う」の割合が低く、特に保護者の 11.5%が「思わない」、27.9%が「あまり思わない」と回答しています。保護者と教職員が、メディア利用の現状に強い懸念を抱いています。これまで「レインボー週間」や「学校保健安全委員会」などを通して、望ましいメディア利用に向けた取組を進めてきました。メディアコントロールは、児童の生活面での自立をめざすPTA活動方針の1つです。児童の健康面のみならず、豊かな人間関係づくりにも多大な影響を及ぼすことから、児童の健全な成長に向けて、学校と家庭が一体となって、望ましいメディア利用のルールや子どもの主体的行動を促す手立てを考えていく必要があります。

学校教育活動をよりよくするために、ご意見や情報があればお聞かせください。

【保護者の自由記述】

○いつも元気に「行ってきます！」と送り出せています。当たり前のことかもしれませんが先生方のご尽力のお陰です。これからもよろしくお願い致します。

→温かいお言葉ありがとうございます。これからもしっかり励んでいきます。

○運動会では、親が参加できるような取組が見られました。中学生の綱引きで、大人対子ども達はとても面白かったです。大玉転がしについても、親子参加型だったので、子どもも喜びました。確かに、日頃、頑張る子ども達を応援すること、観ることが、大切ですが、午前中しかない運動会に来ている保護者も楽しめるようになったらいいなと思います。

→来年度も小中合同の運動会がよりよいものになるよう、中学校と協議しながら進めていきます。

○小学生からも、中学生からも、挨拶をされたことはありません。

→「いつでも、どこでも」気持ちのよい挨拶が交わされるように、学校、家庭、地域が協働して取り組んでいきたいところです。子どもたちから挨拶がないときには、是非、大人から挨拶をしていただき、挨拶を大切にすることをみんなでつくっていただきたいと思います。

○学校内で流しているスライドをホームページでも見られるようにしてもらえるとありがたいです。

→個人情報とホームページのシステムの関係上、学校で流しているスライドをホームページに載せることができません。ご了承ください。

○授業参観だけでは普通の学校生活がよく見えないので、自分の子が授業妨害していたり騒いだりしているなどあれば教えてほしい。家と学校では違うと思うので何かあれば気軽に連絡帳にでも書いてほしい。

→ご意見ありがとうございます。ご家庭との連絡をしっかりとっていききたいと思います。

○プールの授業が夏休みに入ったので、送迎の対応を考えなければなりません。夏休みではなく、1学期内に入れるのは難しいでしょうか。せっかく夏休みが延びたので夏休みに入らないことが希望です。

→来年度は、今年度の反省を基にどうするかこれから協議していきます。町民プールを利用するかどうかも含め、関係機関、阿武町3校の来年度の予定を調整しながら決定していきます。ご了承ください。

○以前から感じていたのですが、校内の掃除が行き届いてないようにいつも感じます。掃除の時間が少なくなったのもあるかもしれませんが、階段やトイレなど。私も小学生の頃は適当に掃除をしていたのでえらそうなことは言えませんが、少し気になっています。

→ご意見ありがとうございます。「無言、協力、集中」を合い言葉に週3日掃除を行っています。児童数が少なくなり、掃除も毎日行っていないので、十分行き届かない点もありますが、時間いっぱい掃除に取り組み、環境美化に努めていきます。

○時限間の休憩時間は10分にしたい方がよいように思うのですが。前の授業が少し延びることもあるでしょうし、5分ではあまりに窮屈で、先生や子どもたちは反対にバタバタして心の余裕がなくなってしまう、返って授業の集中力にも影響が出るように感じられるのですが。トイレにすらゆっくり行く時間がなければ、低学年の子どもは特に言葉を発することをためらい、我慢する習慣になって膀胱炎など少し大袈裟かもしれませんが、毎日その連続ですから心だけでなく、体の不調も出てきたりしないかと少し気にかかっております。

→ご意見ありがとうございます。小学校では、昼休みだけでなく業間休みも確保できるように5分休憩にしています。業間、昼休み以外の休憩は、トイレに行き、水分補給をして次の時間の準備する時間としています。授業の時間がずれたときや教室移動のあるときには、休憩時間を確保できるように配慮しています。学年に合わせて声かけを行いながら時間を意識して生活できるよう、また、困ったことがあったら自分で伝えられるように指導していきます。

○いじめの基準をもっと明確かつ厳しくしてほしいです。学校任せにせず、各家庭でも共通認識をもち、子どもに伝えていける仕組みがあると安心です。暴力や仲間外れ、トゲのある言葉で傷つく子がいれば、それは事実として受け止め、そうした気持ちに親子で向き合い、お互いを理解し合える環境があるとよいと思います。

→ご意見ありがとうございます。日々の観察、週1回実施する生活アンケートなどを通して、いじめの未然防止、早期発見・対応に全校体制で努めています。チャレンジ目標の「ふわふわ言葉」も児童が自分たちで大切にしていきたいと考えて決め、委員会活動でもその推進に取り組んでいます。今年度は、4月のPTA総会で保護者対象にいじめに関する研修を行いました。学校だけでなく、ご家庭の理解・協力が不可欠です。ホームページに「阿武小学校いじめ防止基本方針」を掲載していますので、ご覧いただき、ご家庭でもお話ししていただきたいと思います。今後も機会を捉えて研修を行い、いじめに関する周知徹底を図っていきます。

○学級及び学校として特別支援教育についてどのように学校及び学級経営をしておられるのでしょうか。

→全ての教育活動を特別支援教育の視点をもって行っています。ご家庭と連携しながら、その子にとってよい方法を探ったり、本人ができること、できないことを見極めたりしながら指導、支援を行っています。落ち着かず、声や音を出してまわりへ迷惑をかける行動については、自分を見つめさせ、状況によっては担任以外で対応し、個別支援を行っています。できないレッテルをはったり、差別したり、人格否定やいじめにつながる言動が起きないように、「本人にも約束をしたりして言動に気を付けさせる」と同時に、よさにも目を向けて互いに認め合える学級づくりに努めています。

【学校運営協議会、学校関係者から】

○子どもたちからも、保護者の方からも、今の小学校、中学校の雰囲気がとてもよくて楽しい!!と話しています。先生方がたくさんいろいろと子どもたちのことを考えて進めていってくださっているからなのかなと思っています。親子で楽しい学校生活を過ごせていることにありがとうございます。という気持ちでいっぱいです。

○学力について、国語漢字については、各学年で学習する漢字を覚える。書き順も含めて。算数については、アラビア数字の書き方及び書き順を。3年生までに足し算 掛け算 割り算の確実な習得。これができない子どもが5分から1割程度いるように思います。このことを各先生方もご存知ではないでしょうか。中学校に先送りしないで何かよい解決方法を見つけないものです。

○「分からない」の回答が多く、申し訳ございません。6月は2年生に奈古分校にお越しいただき、ありがとうございます。この場をお借りしてお礼申し上げます。今後も交流活動等できることがありましたら、よろしくお願いいたします。

○小中連携の一層の推進が肝要です。

○ほとんどお役に立てておらず、申し訳ありません。いつも書かせていただいておりますが、教職員の皆さんの心身の健康が、現場に反映されると思います。色々大変とは思いますが、どうか先生方には元気でお務めいただきたいと、切に願います。

→阿武小学校の全ての児童と教職員のことを思っただけのご意見、ありがとうございます。学校教育目標に照らしながら、改善または強化する部分の質的な充実を進めていきます。どうそこれからも、児童の育ちと学びをともに支えていただきますようお願いいたします。